

紀伊國名所圖會

一之卷下
和歌山部

庫	文	閣	内
一七六函	八六六	二	和
一架	三冊	六號	書
		類	

内閣文庫	
番號	和 8666
冊數	23 (2)
函號	176 14



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり

紀伊國及所圖會卷之一之下



府城

寄合橋

名神燒陶器

馬ヶ瀬

青岸

伊達神社

松尾林

竈山

安養寺

式部寺

赤藏院

總系

類宮

竹法箱荷社

燈籠堂

蛭児神社

雄之宮

治善寺

光明院

亀ヶ坂

雄清水

本傳本

綿

法場

本

蛭子祠

伊勢神社

狹園神社

西岸寺

天狗石

日更石

紋羽織

竹法橋

湊川

城山

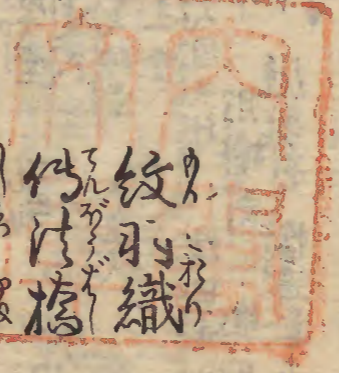
小野所

長光寺

粉の吹

西栗

仙人硯



寄合橋

内河

當津の眼目動送の咽喉はく金城の山はにあり橋上の行人
きりもかぬわがもろくさ集るのなるるべし橋下に出船入
ぬのたえまもあつて誠には南の二都會とつらき

望君之城

合雜

大藩尤貴顯もろき若山城南法鎮殿在 東君席仕
成魚塩元右利草本豈無宗仁政聞裏内士民諷詠情

寒月やり上る城の躰へせ

紀藩 桃 林

總系

本綿

この中の産物から中にも府の總系は皇初めより昔地を治る大府の
ゆ国第一の産物にして其性他邦には採するものば枝のまらうらぬあこも雪景
のこゝろに採るもよき物なり
あつて山をこぼれし毛を採りて毛と撻糸とを毛と撻糸とを毛と撻糸とを毛と撻糸とを
十倍にその毛のつらさをいふべし

紋羽織本綿

あつて山をこぼれし毛を採りて毛と撻糸とを毛と撻糸とを毛と撻糸とを毛と撻糸とを
十倍にその毛のつらさをいふべし

寄合橋

寄合橋

謝泉南先生所
贈棉布因憶南
紀祇伯玉

南方舊聞木綿
花奇卉殊勝桑
與麻三尖桐葉
未深霜一寸葵
心欲傾陽瑤水
蟠桃子正結金
堤弱柳花如雪
蝶殼剖時迸珠
淚鶯群鬪來飄
素蠶人間一葉
碧梧飛泉女夜
織月前機初傳
海上珊瑚市應

換山中薜荔衣
美人所贈我何
酬南望側身歌
四愁君不都布
單衣公孫作馬
接到日不樂留
可憐老去心空
壯却為平生憶
少遊
新井白石

新井白石
寄合橋





文治本坊八宝層七の年よりの
 和舟の彩を丁目雜を其
 くるるの海六瀬皇位た業
 去るるまで五洲山神
 新織の足袋地を
 武夜の製上人
 新織の製上人
 武夜の製上人
 新織の製上人
 武夜の製上人
 新織の製上人
 武夜の製上人

八南橋
 紀の国
 新橋
 岡



紋羽織屋
 後調
 月雙代

名州焼陶器

山口莊雄の山乃庄製して焼くありそのまあるあかこなる中ね

預官

宇合樹のたづめ

榊門

東五間門あり

講堂

八間に額

學習級の三子林
祭主信敏う兼

尚國上古は預官の設けたるんばありとて中葉以後は發志をくりにて舊典のうんごめをほ初南龍公の尚國よりせりやもて文愔武熙のまつごとを起したる預官はなるに國家の子弟としててかく郊に乎る徳をすはきめんとの思ひなりとて創業の世にむこられたるなりたまたま違ふは學業右廟神在る藩の日にありて今のははるふ學舎をたてたるたまはるこも尚つまご全うは
當君御製封のたまは
先君の學志と継ぐるに竟はたの七十年有るに命

こは公造より一とあり儒貞日くは輪番より出勤一藩中子第はるに庶人のもつらにりまて教育せらるるに
羊毎に授業の級最よまごい出務のともは特は物あり
こは褒賞をくはるに御歳暮の秋の二時たりて祭をせ
國君沖左國にむごつら臨むこはななる其れは
歳重ありむごつら文を日くは啓くは後傑の士國より
民志懐の徳をゆかり今にりる南方文明のたのむを
るこてまごんるに我邦學校とありとて 天智天皇
の初よりまきり 持統の初は大學寮あり 孝後の初は
桓武の初はなえと生徒稍に衆多たりて勸學田代
ねとてその愛に供したるに國考よりなり 傳は社學
の兩院は源氏の學館にりて左京のよにたりて學友院
は攝氏の崇徳にりて攝太右嘉智の創するところ初學院

藤原氏の学ばれしを嗣のたてりてありては
唐弘文院を以て小野篁の學校を以てありては
此文學の設けりてを教となせりてありては
此書のもも支那より傳へたるものも
は但徠先生の吳利年を以てて
持ててて翻刻してては
此書のもも支那より傳へたるものも
は但徠先生の吳利年を以てて
持ててて翻刻してては

傳法

此書のもも支那より傳へたるものも
は但徠先生の吳利年を以てて
持ててて翻刻してては
此書のもも支那より傳へたるものも
は但徠先生の吳利年を以てて
持ててて翻刻してては

傳法抄

此書のもも支那より傳へたるものも
は但徠先生の吳利年を以てて
持ててて翻刻してては
此書のもも支那より傳へたるものも
は但徠先生の吳利年を以てて
持ててて翻刻してては

馬が瀬

此書のもも支那より傳へたるものも
は但徠先生の吳利年を以てて
持ててて翻刻してては
此書のもも支那より傳へたるものも
は但徠先生の吳利年を以てて
持ててて翻刻してては

傳法抄

此書のもも支那より傳へたるものも
は但徠先生の吳利年を以てて
持ててて翻刻してては
此書のもも支那より傳へたるものも
は但徠先生の吳利年を以てて
持ててて翻刻してては

本

此書のもも支那より傳へたるものも
は但徠先生の吳利年を以てて
持ててて翻刻してては
此書のもも支那より傳へたるものも
は但徠先生の吳利年を以てて
持ててて翻刻してては

城

此書のもも支那より傳へたるものも
は但徠先生の吳利年を以てて
持ててて翻刻してては
此書のもも支那より傳へたるものも
は但徠先生の吳利年を以てて
持ててて翻刻してては

此書のもも支那より傳へたるものも
は但徠先生の吳利年を以てて
持ててて翻刻してては
此書のもも支那より傳へたるものも
は但徠先生の吳利年を以てて
持ててて翻刻してては

秋真
 一夜西風滿樹秋
 卧牀無夢思悠悠
 吳江水冷魚應笑
 好傍蘆花浚釣舟
 相江



淡州
 淡河川



入道全善の虫居り城跡ありとて山をり
 吹上の精舎の辺まて
 一堆の虫らた〜〜漢のらよと時萬戸折石ありせし山魏然と
 る壯観とらた〜

二に本あ〜〜〜川 俵 山 画 雜

あ〜〜

川口の〜〜〜川 俵 山 画 雜

燈籠堂

涼〜〜〜船の帆〜〜
 正 秀

蛭子の祠

神代よりなりたる〜〜

加 代 貞 佐

約字の〜〜〜

伊達神社

小房町 祭る神一座五十猛命 伊達神代

伊達社
 蛭子社

伊達神社

あやまん

去來





安養寺
雄天神
西岸寺

卯のくまに
筆れろ
柳の枝
夢林

たふふろり... 朝鮮國太子真宗之碑石
二月十九日卒... 西岸寺
安養寺の用基... 雄天神... 西岸寺
卯のくまに... 筆れろ... 柳の枝... 夢林

守とてける等らに彼地大儀とて教旨をたたりての事

間々小堂を築く等々平山流の流刺とてありぬ

小野山安養寺

小野山町南にあり時宗の御願にて建立す

本尊阿彌陀佛

二尺一寸 観音坐

雄天庵大自在天神社

天曆年中權直幹御五國へ左遷の御願にて建立す

昔のころは伊國男の火門と備備へたりまるといふと靈地によりて此所の地味は

神林跡 梅あり

鶯も三枝とてありてむかひなりとて耶

夫道寺の守者一遍上人の俗姓は伊豫国佐和田七郎道廣乃

二男なりて雅名を松壽とて幼少より徳の劇悟にしく善

持心あり信あり建長五年は圓天台宗の継宗寺の縁教律師

師とて之を授け戒を授け隨緣房と号し

浄土宗を達上人とてまじりて其名を智真とありとてく易の念仏

門入建治元年冬十二月下旬より慈覺寺の御願奉宮護誠

殿に一百日衆を奉り念仏の御願を祈願し

年二月廿九日大持戒の御願の事あり

より一遍上人とありて神勅をまじりて南無阿彌陀佛

性生のれと諸国の庶民は幾多あり十八ヶ年のあるて圓圓の

たふひ終つて二年八月廿二日横須賀兵庫津にたつて遷

住しありて小田園海防郡難波の庄小田園村のまじりて田

浦とてす州庵ありしに志ざりて徳教を奉り念仏弘通あり

らりてよりて庵主唯の御願にて徳教とありてとあり

其後嘉永四年島山右衛門督若園を舎取再營し

時宗念仏の道場とてあり

兵火に罹りて荒廃にたりしを奉りてを奉りて念仏弘通あり

以て嘉永年中島田浦より小田園小田園村

昔長年中葉山果報院此地に移し今迄切あるなり

孤圓山浄秀院浄秀院五岸寺五岸寺

二尺四寸余二尺四寸余余余余余服士服士太子堂太子堂鎮守祠鎮守祠

八幡大菩薩八幡大菩薩

寺傳寺傳曰夫由曰夫由超超覺覺法法印印法法元元の開の開基基にに始始りり天天台台乃乃

林林尊尊阿阿弥弥陀陀佛佛

人皇人皇二十二十代代村村上上大大皇皇弟弟七七のの王王子子二二品品中中務務卿卿具具平平親親王王十十四四代代

從從一一位位准准后后親親房房ををりり親親房房嘗嘗てて曆曆應應二二年年由由國國和和分分のの

浦浦あるある山山ののふふ々々軒軒ををりり自自らら林林尊尊がが性性無無常常とと信信じじ

世世のの買買置置塵塵ととななりりてて一一心心にに寂寂寞寞ととああるるににけけりり其其のの由由

父父師師重重がが十十七七画画のの遠遠思思をを山山がが善善提提ののめめにに石石塔塔安安ととななりり

今今のの寺寺内内ににありありまままま夫夫のの林林をを再再興興すするるにに山山本本鎮鎮守守ととななりりてて延延

文文四四年年四四月月十十八八日日終終るる六六十十七七歳歳にに生生じじりり其其のの六六代代具具

教教のの代代よりよりいいろろいいろろ侯侯勢勢圓圓可可敏敏にに任任じじらられれ織織田田信信長長とと教教をを

合合戦戦ななれれままいいびびりり永永祿祿九九年年十十月月和和睦睦ののととのの信信長長がが二二男男信信

雄雄ををりりてて具具教教をを督督ととななりり尋尋常常とと文文龜龜元元年年五五月月具具教教入入道道とと

法法諱諱をを超超覺覺とと号号しし後後法法光光とと号号ししままるるにに超超覺覺五五男男ありありととのの

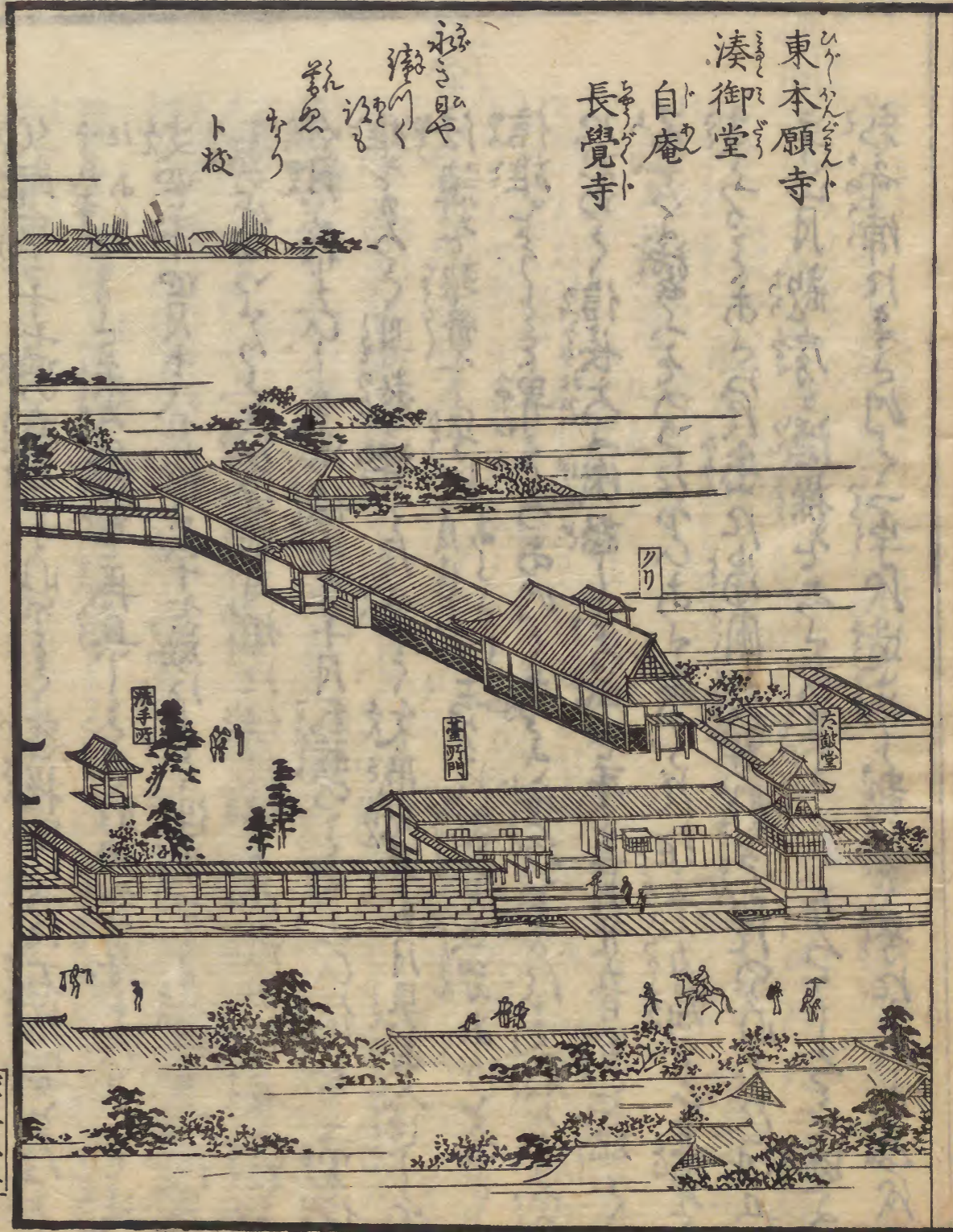
信信雄雄とと号号ししりり昇昇りりててあありりてて其其のの後後にに信信長長とと号号ししりりてて其其のの後後にに信信長長とと

不不ままりりてて其其のの後後にに信信長長とと号号ししりりてて其其のの後後にに信信長長とと号号ししりりてて其其のの

支支つつててあありりてて密密にに國國をを治治めめりりてて其其のの後後にに信信長長とと号号ししりりてて其其のの

年年正正月月親親房房がが德德操操とと号号ししりりてて其其のの後後にに信信長長とと号号ししりりてて其其のの

私私奇奇浦浦ににままいいりりてて其其のの後後にに信信長長とと号号ししりりてて其其のの後後にに信信長長とと



東本願寺
湊御堂
自庵
長覺寺

ト枝
水
瀬
舟
舟
舟
舟

三十三上

北高の屋敷跡(勢州山田)
 宮川の西一里許上多る
 村といふ所あり
 播磨の社地となる
 境内の松樹古より
 三葉にして地より
 移し植といふも
 皆變てて三葉と
 なるかといふも
 昔寺境内の松も皆
 三葉といふも
 寺といふも



林常とてい院を憶ふといひ弥勒寺と名づけて天台止觀と
 修したるが月八年四月十日大坂石と奉成ちるは津門主とて子
 石ら瓜は寝たあつて道國は下向あせあひて雑家の門徒
 に土橋平治島なるもの己修業を別業に攝へて六すからん是よ
 むるもいそこ瓜は後の津坊とてあつて門徒は土橋平治島と
 修し終本孫市出奉三島を夫考本にたる佐久間休方ら其好
 雜かると瓜はわいもあつてあもくそとせとらつて津坊とも復
 し奉りたるふ信長とてに五島をらに二十餘の遣兵を合
 てこれと遣討し心修業あり門徒多しこのごとく守り防ぐと
 つもも多勢に敵とるにあつた既ん危くりとて津門
 主父子は真宗の滅亡今このまをたりと思へるもいそも
 祖の津直影の故の手には渡さしとて庭上は葉新瓜や戸の
 ごとくにはぬしめ空方に火をうけ津父子既んは真宗と抱て

其中にぶつんとてうちし孫市体たつ常れ超覺法印
にきくく交てしけり急とはげく助力を乞ひ超覺えん
より信長は深き恨あまふたさくし許諾せしむるに
二人をかくもせりて其由中門主を報へしとせり
かゝるるよりあつてしはあつてしは顯如上人佛長の袖
をかきしむるにゆゑもあつてしはあつてしはあつても
勿律なくもあつてしはあつてしはあつてもあつても
ぬいし他力を頼めしはあつてしはあつてしはあつても
も恨をいしむるに代門主のつてしはあつてしはあつても
影にこれまらし中記念をるも悲愍の手にあつてしはあつても
あつてもあつてしはあつてしはあつてしはあつてもあつても
のつてしはあつてしはあつてしはあつてしはあつてもあつても
とぞあつてしはあつてしはあつてしはあつてしはあつてもあつても

ゆつとせ孫勒寺山にうはしなる教如上人にさるに中思案
をさるるにいふゆゑに長考に説く義をとりそのへんとひ
そつに思ひあつてしはあつてしはあつてしはあつてもあつても
討取んと追ふるに上人のつてしはあつてしはあつてもあつても
崎あつてしはあつてしはあつてしはあつてしはあつてもあつても
来ても絶たすし此あつてしはあつてしはあつてしはあつてもあつても
か人あつてしはあつてしはあつてしはあつてしはあつてもあつても
ゆゑをさるるに戦ひしはあつてしはあつてしはあつてしはあつてもあつても
格く迫りしはあつてしはあつてしはあつてしはあつてしはあつてもあつても
二日京都本能寺にたつてしはあつてしはあつてしはあつてしはあつてもあつても
なつてしはあつてしはあつてしはあつてしはあつてしはあつてもあつても
れと上京ししはあつてしはあつてしはあつてしはあつてしはあつてもあつても
中門主をさるるに門主のつてしはあつてしはあつてしはあつてもあつても

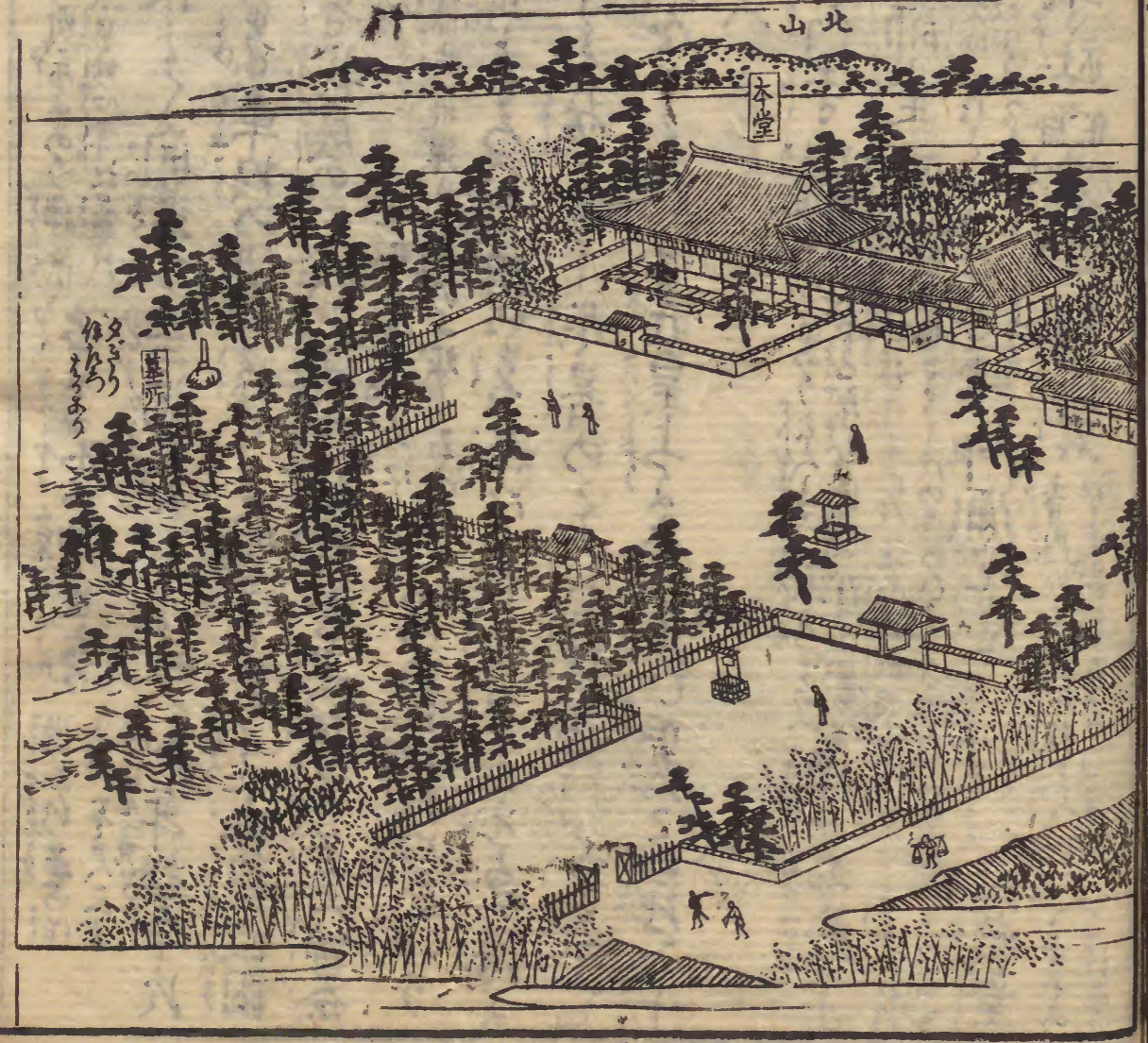
けりるるももふんい夫の林のに悦にしく其とたうい
 山下後して故ををふぬりかちととふくの靈蹟ありさ
 其其後西陣門主の聖九年八月まて終るあうて也い
 しがそれよりしてい當らう移りたまひ又の年の六月まて
 なま此の超覺の教如上人の法勸化と聽聞をいなり鎮座
 宗の序終して師より子とより法諱をあしめく法をい
 こまより承く其のの功場とちりりたり
 近き再建ありく美麗なり日毎に晨鯨の鳴く
 より老翁の緇素袖瓜はね悦の称多月々にあしきき
 去此不遠の浄ちもつる
 什物赤梅壇阿弥陀如来尊像 遊戯と安んじてまらるるのこの山
 関白秀吉胡蝶仙仁代のおうりこのうらまはるるのこの山
 にあつく住居せしりの奉むよりくまらるるのこの山

鎮守府大將軍源頭家御所持長刀 石塔 龍泉 國安部 野小あり

吹上寺

北山 本堂
 此の山にありては
 吹上寺にありては
 此の山にありては
 吹上寺にありては
 此の山にありては
 吹上寺にありては

夏日印事
 讀罷芬陀典深林人事
 静目手門未閑禪林坐
 松影



天香山吹上寺

濱の所ありあり禪宗
解次京妙心寺に屬す

本寺の如く教世亭

傍に竹藪の作
しけを尺二寸

當山古刹

閑養と圭端大ね者との入紀年詳るに

ちの吹上の早車坂の辺に建りしをかりえおの比叡園
主浅野但馬守長晟の夫人正清院殿奉養果悦其方大姉茶
畏の地也

松樹蒼茂

林とる一巻暑のころに海風瓜引くこと

まゝとるふ人を〜頓義皇よあ〜し田忌この比と十

乾王門

松龍山光明院普門寺

左田にありあり上人の遺蹟あり
本寺の如く教世亭

大師堂

阿彌陀堂

本寺の如く教世亭

阿彌陀堂

地藏堂

本寺の如く教世亭

鎮守社

阿伽石

本寺の如く教世亭

阿伽石

地藏堂

本寺の如く教世亭

地藏堂

鎮守社

本寺の如く教世亭

鎮守社

阿伽石

本寺の如く教世亭

阿伽石

地藏堂

本寺の如く教世亭

地藏堂

鎮守社

本寺の如く教世亭

鎮守社

阿伽石

本寺の如く教世亭

阿伽石

地藏堂

本寺の如く教世亭

地藏堂

鎮守社

本寺の如く教世亭

鎮守社

阿伽石

本寺の如く教世亭

阿伽石

地藏堂

本寺の如く教世亭

地藏堂

鎮守社

本寺の如く教世亭

鎮守社

阿伽石

本寺の如く教世亭

阿伽石

地藏堂

本寺の如く教世亭

地藏堂

鎮守社

本寺の如く教世亭

鎮守社

阿伽石

本寺の如く教世亭

阿伽石

地藏堂

本寺の如く教世亭

地藏堂

鎮守社

本寺の如く教世亭

鎮守社

阿伽石

本寺の如く教世亭

阿伽石

地藏堂

本寺の如く教世亭

地藏堂

鎮守社

本寺の如く教世亭

鎮守社

阿伽石

本寺の如く教世亭

阿伽石

地藏堂

本寺の如く教世亭



光明院

連理松

庭松颯颯也亭亭送
夜聲篔簹好雨星雙鶴
白一牛青清風今被
幾人聽

十返り

離あて
離あて
離あて

連理堂 園祖君の御殿庭木のわねくまるといふもまぶらぐら
上野綱五郎林本所横坂町此四町入一つりたる
鶴 鳩 上野綱五郎林本所横坂町此四町入一つりたる
栗世の家あり

卵のたまごを待たせしむる初がはか
鬼 貫 塙 亭
大川鯨よりあぶる牡丹の卵

惠美須社舊地 牛町 龜ヶ坂 天狗石 不動の王
牛町 龜ヶ坂 天狗石 不動の王

孤雲山本師院西雲寺 當山石制りて用者詳るは度長中九卷上を中興用也
南岳の蔵院密林寺 寺の古蹟

雄の清水 備後守の御殿の跡にありて田畑の雑とん
法師の御殿 二年このまゝにあり

日惠芝 堂の西のありて吹上り王度御殿の跡にありて
仏人の硯 府城の西のありて仙居山のありてあり

いふ所のありていふ所のありていふ所のありて
いふ所のありていふ所のありていふ所のありて
いふ所のありていふ所のありていふ所のありて
いふ所のありていふ所のありていふ所のありて
いふ所のありていふ所のありていふ所のありて



いふ所のありていふ所のありていふ所のありて
いふ所のありていふ所のありていふ所のありて
いふ所のありていふ所のありていふ所のありて
いふ所のありていふ所のありていふ所のありて

吹上

日没守府城の西南をりて

吹上の濱より西南の風起りて

一夜のちんちんたる吹ありて

平地となりて常の風を

よるるなりて此地に

古蹟なりてありて

三ヶふ染田なるもの

此の月もあつて

後拾遺記に

都に

新古今

日

新

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

南五

雪のうらみはつらなるけう風の吹上の後よあはる白雪

源資氏

ま本

吹上の後風をよめよの雪あまなるけう千のり耶

太藏右家

日

きのこやまの吹上の後よあはる雪の塩をうけたあめん

慈鎮和尚

日

うら遠く西渡はらるる塩風のねりよあはる吹上の後

前大納言為氏

日

月影のよみよあはるけうの吹上の後よあはる吹上の後

後九条内大臣

日

春風のきよきよあはるけうの吹上の後よあはる吹上の後

鎌倉右大臣

日

紀のくもあはるけうの吹上の後よあはる吹上の後

後鳥羽院宮内

内裏名

春の後のなごもあはるけうの吹上の後よあはる吹上の後

俊成女

沖集

桃とよあはるけうの吹上の後よあはる吹上の後

後鳥羽院御製

紫禁

りるあはるけうの吹上の後よあはる吹上の後

順徳院御製

散本

きのくの吹上の後よあはるけうの吹上の後よあはる吹上の後

後頼朝臣

山家

けうの吹上の後よあはるけうの吹上の後よあはる吹上の後

西行法師

月信

きのくの吹上の後よあはるけうの吹上の後よあはる吹上の後

後京極攝政

飛鳥井

冬寒もよあはるけうの吹上の後よあはる吹上の後

雅有

隣女

白の吹上の後よあはるけうの吹上の後よあはる吹上の後

雅有

家集

白の吹上の後よあはるけうの吹上の後よあはる吹上の後

為家

家集

吹上の吹風もよあはるけうの吹上の後よあはる吹上の後

師兼

家集

吹上の吹風もよあはるけうの吹上の後よあはる吹上の後

権大納言為尹

千首

春寒もよあはるけうの吹上の後よあはる吹上の後

宋雅

白題

吹上の吹風もよあはるけうの吹上の後よあはる吹上の後

鎮阿法師

家集

吹上の吹風もよあはるけうの吹上の後よあはる吹上の後

宮内少輔

西槐

春風の吹上の後よあはるけうの吹上の後よあはる吹上の後

藤原光紘

名寄

吹上の吹風もよあはるけうの吹上の後よあはる吹上の後

榮雅

建保

吹上の吹風もよあはるけうの吹上の後よあはる吹上の後

兵衛内侍

日

吹上の吹風もよあはるけうの吹上の後よあはる吹上の後

定衡

日

吹上の吹風もよあはるけうの吹上の後よあはる吹上の後

行能

日

吹上の吹風もよあはるけうの吹上の後よあはる吹上の後

康光



四糸大御言
御座り上り
後おはせは
小水は宮元大
御座り上り
の文人ゆき
朗詠集と撰
なまや
まろ

あつたあひの
吹上の峰の
秋の夜と吹上のまの
中將つてや

大將

吹上の峰の
吹上のまの
吹上のまの

吹上のまの
吹上のまの
吹上のまの

吹上のまの

吹上のまの

後九条前内大臣

中務のみこ

光俊朝臣

中納言國信公

吹上の峰

吹上の峰

家隆

吹上追か

中務卿親王

貞室

素登

吹上のまの

吹井の浦

吹井の浦

藤原信正

吹井の浦

吹井の浦

吹井の浦

吹井の浦

吹井の浦

吹井の浦

吹井の浦

吹井の浦

吹井の浦

妻集

月

月は清くさうさうとありてやその浦のあかりや

廬主

夫木

芦

芦は鶴もくくありてやその浦のあかりや

寂蓮

脚集

芦

芦は鶴もくくありてやその浦のあかりや

順徳院御製

ははき岸を

わたりて吹舟の月をよみたりや

其角

行ふもさし吹舟の影をよみたりや

岩翁

細き吹舟のうらやまをよみたりや

横儿

細師の岳

夫木

吹舟を吹上の浦にありてやその浦のあかりや

よみ人

吹上八景

從二位為久卿

雜貨晴嵐

嵐の浦にありてやその浦のあかりや

妹嶋夕照

日よき塩灘の浦にありてやその浦のあかりや

吹上秋月

空は清くさうさうとありてやその浦のあかりや

飽浦飯帆

すさみ吹舟の浦にありてやその浦のあかりや

名州山晚鐘

名州の鐘はありてやその浦のあかりや

紀漆落雁

仲津の浦にありてやその浦のあかりや

形見浦夜雨

わたりて吹舟の浦にありてやその浦のあかりや

藤白暮雪

及白や雪の浦にありてやその浦のあかりや

吹上の夜行

世俗荒夜

この上巳の夜行はありてやその浦のあかりや

淡路の浦にありてやその浦のあかりや

の奥にもありてやその浦のあかりや



上りの帆の
 法政
 去來
 毛纏と
 鬼貫
 肥後北里
 一平
 志の元
 一平
 志の元
 一平



吹上の濱
 春宵一刻
 價千金花
 有清香月
 有影

河津より路濱行貝も貝も拾へしより大浦より三人
 ちのぬもさく茶店茶屋茶店めつるをあつせし飽まき春
 色にふりて世のまをす。

河津の山に雲を袖にくまらうや

照けく海を白くしり茶

嵐 雪
 伊勢 樗 良

吹上の白菊

倉海さくく桑田さる古人既よ名所佳區の世に沿革さる
 一風嘆じりくく一を柄の橋が壺の碑うられく路のまをた
 かねも多の千歳もた埋まじりて今に詩うはくあめの歌よ
 よし詩い賦さるるもあつて常にもあるりの賞をた
 一ははし無の心愛さるるもあつて常にもあるりの賞をた
 當世のりあつて一人骨とけりて竹卓たさつて
 世に其名をたつて今に詩うはくあめの歌よ

かねを論じてやこの吹上の白菊くもつる其まら共
 花さくさくだもつる世の勅採あもよもく其まら共
 一ははし地のまをりて珠ま奉るのまらだもこれとれ
 菊さく菊さくさくさくさくさくさくさくさくさく
 さくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
 呼ぶさくさくさくさくさくさくさくさくさく
 奉鞠にはくさく鞠く鞠くさくさくさくさくさく
 さくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
 謂ふ鞠のまをさくさくさくさくさくさくさく
 羊をのつるまらとつるまら我邦ゆこの後あることなり
 仁徳帝の胡人より百濟国よりさくさくさく
 仁徳天皇よりさくさくさくさくさくさくさく
 さくさくさくさくさくさくさくさくさく
 さくさくさくさくさくさくさくさくさく
 是日東に菊を愛するの助なる字を

帝のおく菊の花の尊ありて一よりこのうへ代にたせす
ゆのまへく花とまほほくさなまほだをたふふらうに徳
享保のほくを培植と斬つた今にまありと上
大維菊ありゆのなほふくまほくさなまほくさな
我邦菊のまほくさなまほくさなまほくさな
ゆのまほくさなまほくさなまほくさな
菊のまほくさなまほくさなまほくさな
花鏡の九箇のまほくさなまほくさな
ゆのまほくさなまほくさなまほくさな
半日本の一すのまほくさなまほくさな
うほくさなまほくさな

九月九日... 紫檀

白銀
紺
青
緑
青
中務のまほく
兵部のみまほく
大將

吹上ふいたあひの歌うた



菅原朝臣
從三位為實卿
素性法師
後相原院

古今ここん 秋あきの吹上ふいたあひたる白菊あきぎくのなるまはらわたりよるらね

夫木つまき 花はなもしく菊きくのなるまはらわたりよるらね

日ひ あれれあれれの吹上ふいたあひたる白菊あきぎくのなるまはらわたりよるらね

柏玉かしわたま 白菊あきぎくのなるまはらわたりよるらね

雪王ゆきおう 今いまの世よの霜しももまじけぬ秋あきの白しろきく

家集けあひ 吹上ふいたあひのなるまはらわたりよるらね

外根そとね 吹上ふいたあひのなるまはらわたりよるらね

自然しぜん 吹上ふいたあひのなるまはらわたりよるらね

浪なみの菊きくををまじけぬ秋あきの白しろきく

吹上ふいたあひ神社じんしゃの吹上ふいたあひのなるまはらわたりよるらね

待賢まちけん院いんの中納言ちゆうなごんのなるまはらわたりよるらね

西行さいぎやう山家集さんけあひ云々

菅原朝臣
從三位為實卿
素性法師
後相原院
實隆
宋推
正徹
宗祇法師

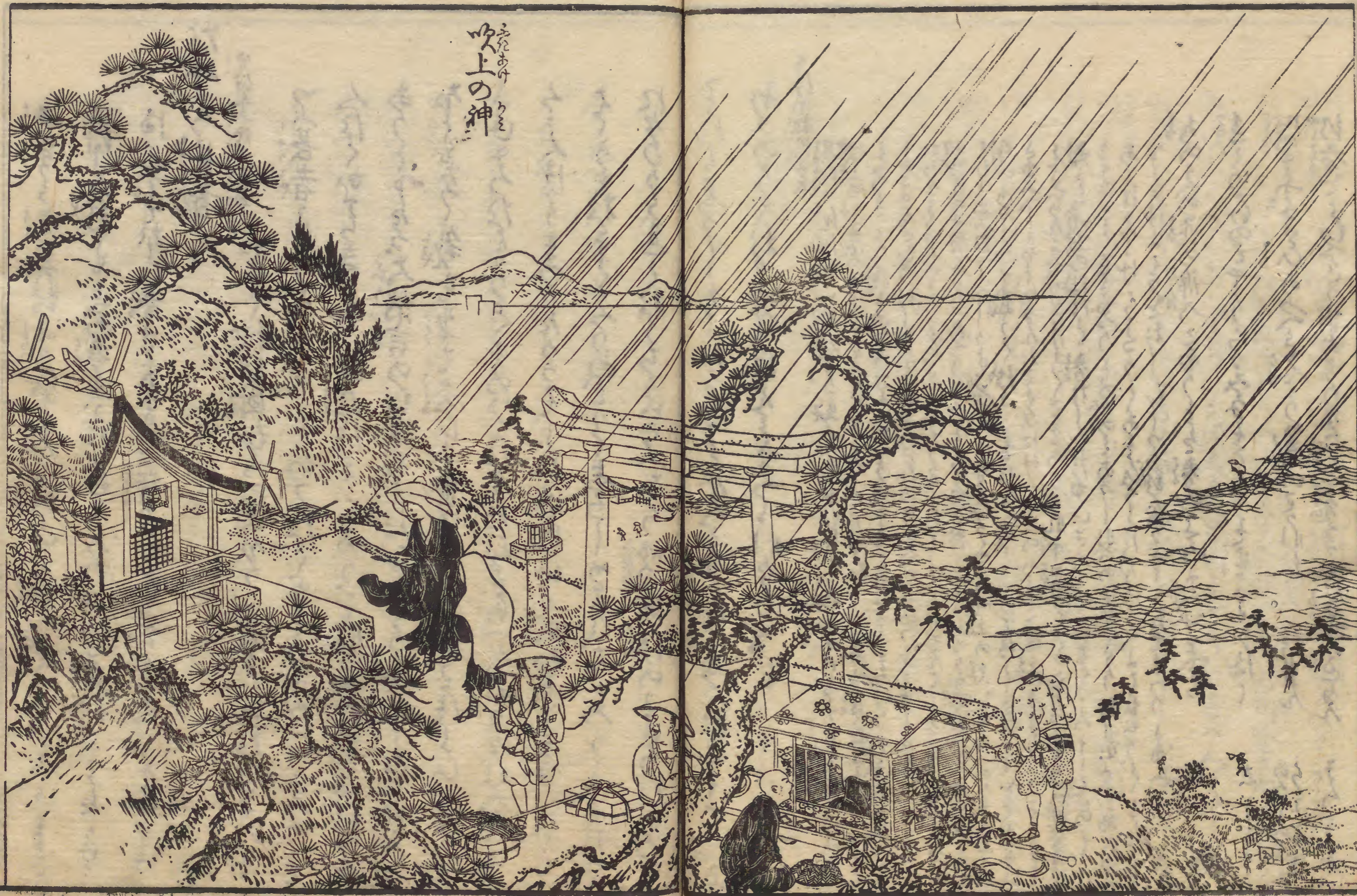
槐亭

吹上神社

待賢院の中納言

西行山家集云々

吹上ふきあがりの神かみ



春あつし羊ふりつて万代を君いほむるもあはれ

さかきかたもきりて春あつしはなはたはなはな

南ふりてはなはたはなはなはなはなはなはな

たねまろ長者

たねまろ長者

長者のつらみもあつしはなはたはなはなはな

あつしはなはたはなはなはなはなはなはな

あつしはなはたはなはなはなはなはなはな

あつしはなはたはなはなはなはなはなはな

あつしはなはたはなはなはなはなはなはな

あつしはなはたはなはなはなはなはなはな

あつしはなはたはなはなはなはなはなはな

あつしはなはたはなはなはなはなはなはな

あつしはなはたはなはなはなはなはなはな

あつしはなはたはなはなはなはなはなはな

あつしはなはたはなはなはなはなはなはな

あつしはなはたはなはなはなはなはなはな

あつしはなはたはなはなはなはなはなはな

あつしはなはたはなはなはなはなはなはな

あつしはなはたはなはなはなはなはなはな

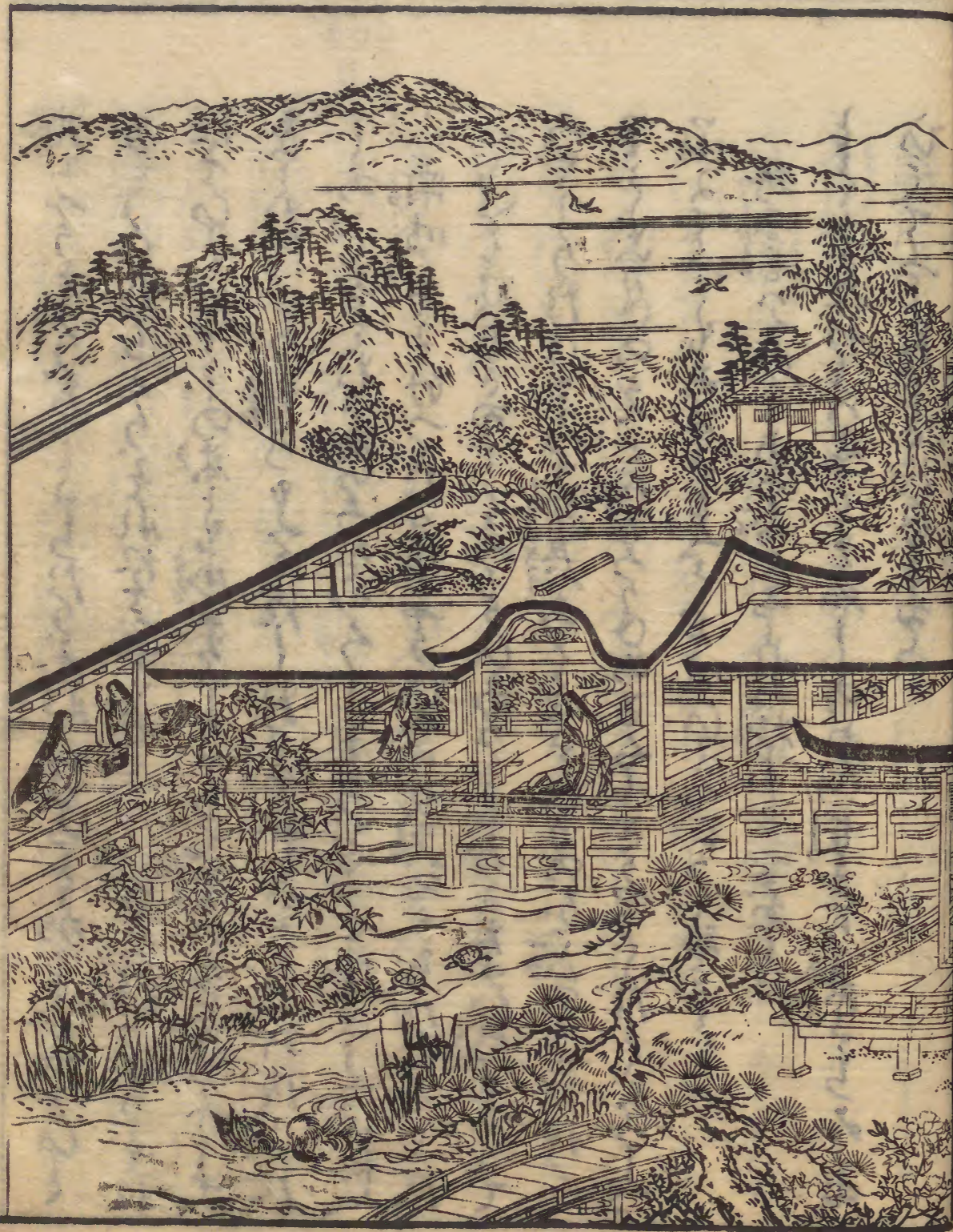
あつしはなはたはなはなはなはなはなはな

あつしはなはたはなはなはなはなはなはな

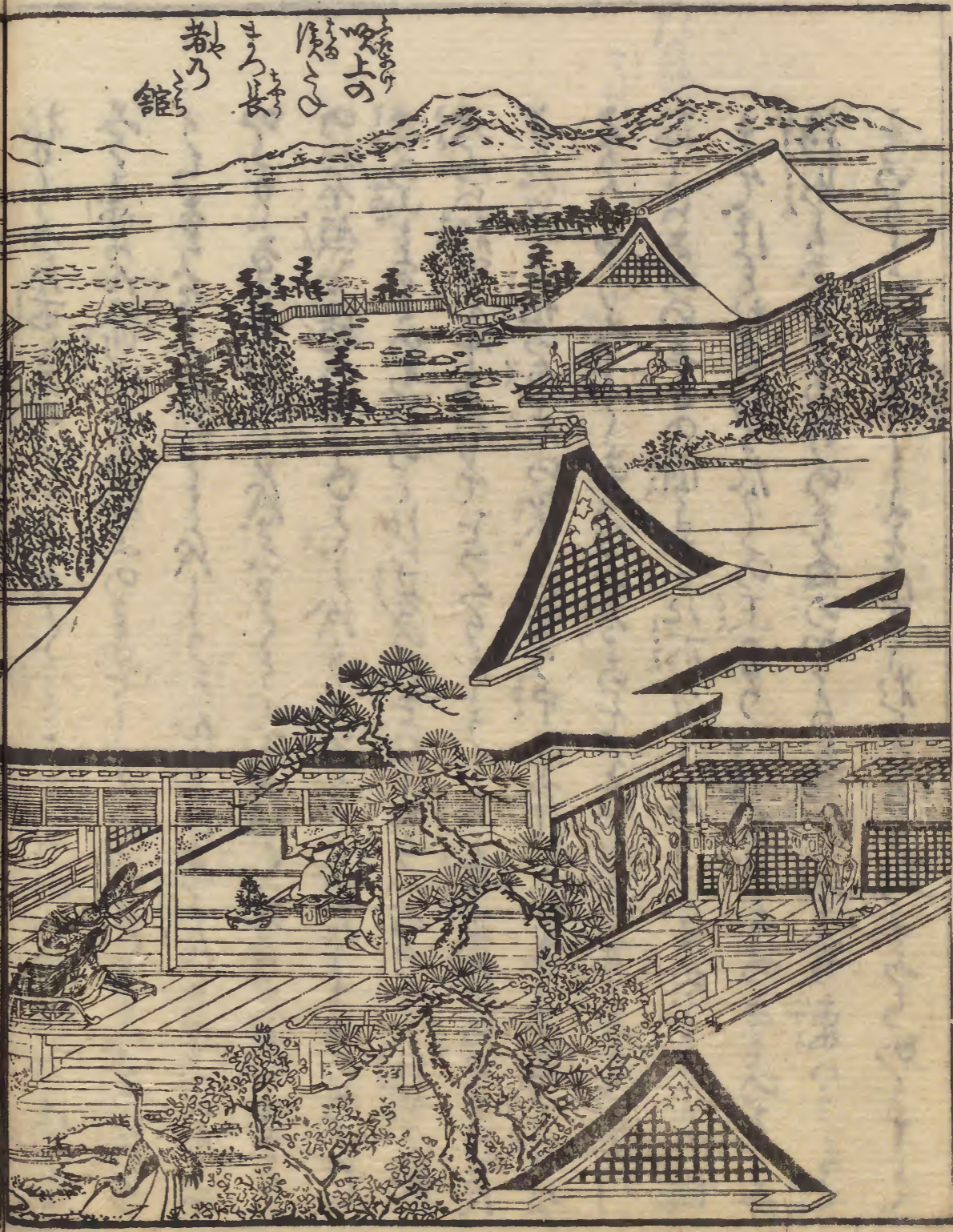
あつしはなはたはなはなはなはなはなはな

あつしはなはたはなはなはなはなはなはな

あつしはなはたはなはなはなはなはなはな



都乃
館
長
子
の
御
殿



贈三位宰相頼職卿の仲母君

真如院殿の仲空仲殿ありける

真如院殿在世の時

常行の淨刹造立の志願深く在りしを竟に其の志

果したるを世に語りたまひしは第六代の太守

從二位大納言宗直卿の仲空にありける彼は志願の遂を

たまはざりし事を嘆きおぼやかしむるに享保年中報

恩寺の末頭僧都日從上人に命じし所山に仲殿の地を

其まに寺院とありしを改めし若干の祠堂金紙よを

たまはしむる莊嚴日依逐くし輪廻あり

白雲山報恩寺

日本南に遠く法華宗大本寺

本堂奉尊

親迎 首題

眼士 上行四菩薩

眼檀

右 瑞林院殿尊牌

衣子長 三徳作はあひ

九月草創のしは

瑞林院殿尊牌

仲靈屋

位牌

鎮守二十番神祠

鏡梅堂

西上奉養

御所 共の奉養

瑞林院殿御所

御成御門

下敷ありしあり

當分の起立結構とたはりし始

國政君南龍院殿御主人

瑞林院殿淨秀日芳大姉寛文六年正月廿四日とありし東武に

掩蔽ししゆをいふ御遺骨と奉じし由城の南上栗野寺

小ころ瓜納りたまはりし第二代の太守

從二位大納言光貞卿

仲母君御追福の由ありし深きまはりし幕府に

達りし此野の寺の地と收りし新に法華の精舎と創建し是

と白雲山報恩寺と号しし 瑞林院殿の御菩提所と

たりしをいふに於て宗法と撰んし日順上人の命じし所山

導師と永世奉養寺にありし當国一家の大層に定めし

寺領若干と寄賜しし同公権大僧都日順上人の御

奉養の士石野昌良とありし知れし父はあひしはあひ

邸中にありし 太守の恩寵とありし六歳にして出家し

甲州大野山三世日性上人と師たる日性上人の著したる書として亮展と云
性温厚赤平に於てよく養はるるひとも聰明穎悟に於て
夙に法華經誦讀し多く外典も通達せり十二歳にして
志を定めしき下総国飯沼の檀林に於て祝業するに
五年ふりて移て上総国小西の学舎に研究するに十有年
通計廿有年にして学成凡内外の書ふたれり該覽せりるも
ちく尚ほ江湖の僧侶上人の才よあるものありてかゝ然りて
もももま 日香大姉中世の著したる資給きたるころの
かに山をもちて終つる法縁のうやうやとせり
左の著し上人の法請りて用和とありてあり上人はまはらふ
徑おる日 養内を免とせ推大僧都に任じたまふ
時、廣徳家
れけりて海にわのく修養と
尋て延宝三年八月東武以下向一は九月朔
幕府にの請ひ誦し誦す 中時服と妙入をすりてゆひのす

特に黒世住侶交代の儀式たるかゝる上人自享二年城東
安原莊相取村の古刹に退隱し自ら山房中興して慈供寺
と号し 終元禄元年九月十日世壽六十四法腊
五十九にして寂を去りてあり
什寶 多岐沙息四幅日親を人奉る重乾遠二幅對曼
荼羅 大小 吉宗ハハ自筆お分 先自脚自筆提女品
并画 宗直脚自筆法并位 養珠院殿中消息
瑞林院殿中詩次 閑山緋紙金泥大奉尊 并歷代奉尊
古哲奉る教幅 大涅槃像 中入三才七丈八尺の真の無の著したる
日蓮大士作大黒天神 赤梅檀立像釋迦
佛 作去 弘法大師墨跡 陳子昂墨跡 此外古書画は後入
宮方大寄家作寄附の市手はる木技奉するにあり
善曜山蓮心寺 上寺所南角にあり法華宗實屬 奉堂 圓祖 前亞相頼宣殿
于豆明玉澤經王山寺



蓮心寺
門前の姓
向ひ

近江
文素

大正

玉林

方丈

長

本堂

三

徳

松

美

表



大智寺
 大智寺
 大智寺
 大智寺
 大智寺
 大智寺
 大智寺
 大智寺
 大智寺
 大智寺



鎮守社

稲荷寺後大明神を遠州より

増上山仙境院護念寺

日蓮宗のありしなり

奉請阿弥陀佛

長一尺八寸 服士

慈至善書院

以上二寸

信徳のまゝ

増上山仙境院護念寺... 奉請阿弥陀佛... 長一尺八寸 服士... 慈至善書院... 以上二寸... 信徳のまゝ... 増上山仙境院護念寺は、日蓮宗のありしなり。山麓にありて、寺にありしなり。奉請阿弥陀佛、長一尺八寸、服士。慈至善書院。以上二寸。信徳のまゝ。

鎮守社... 奉請阿弥陀佛... 長一尺八寸 服士... 慈至善書院... 以上二寸... 信徳のまゝ... 増上山仙境院護念寺は、日蓮宗のありしなり。山麓にありて、寺にありしなり。奉請阿弥陀佛、長一尺八寸、服士。慈至善書院。以上二寸。信徳のまゝ。

蜀紅俾五條の長 東照神君の御成金
深信山大恩寺 徳正の御成金

上人の法徳 上人の徳

上人の法徳 上人の徳

上人の法徳 上人の徳

上人の法徳 上人の徳

上人の法徳 上人の徳

上人の法徳 上人の徳

たまへん... 徳者上人の命とつりけり... 謙の林規とありてより... 法騰や傾けたるにて... 泉州坊大徳寺の退徳... 晋人の...

晋人の... 泉州坊大徳寺の退徳... 謙の林規とありてより... 法騰や傾けたるにて... 泉州坊大徳寺の退徳...



瘦枝之花嬌々たりと云々賞しと歸入千のの産の御まのそがしたと云々此生

谷川の吹上りたる多木のふ天付堂あるをやわりん 定家

梅花百詠 漢毒 秦少游

一带寒流碧湛神臨流芳樹見天真綺衣映月沙

鳥鶴玉質愆波鏡裏人自得阜蘭全臭味肯隨岸

柳共烟塵雪晴香動津頭路曾約漁郎往探春

自伝奇美奇

保内へ千本のくらんゆり草 淡々

山上やつりそあやむ毒花

明

院

保内へ千本のくらんゆり草 淡々

山王社

府城の守護社ありて寺は延喜式に記されたり

兵衛五社

城内の地中に在りて

元二天師堂

本半の御まありて法人末社 痘瘡の守護 十五

嵩山冠基久遠々々は及びりて長五平法印

長次中真々々々日愈のよのよありと云々

今福神明宮

新西の所ありて

祀神天照皇左神

車代主神 倉稲御神 針鬼八社

外宮祀神豊受皇左神

左座 右座

初原壇三十二神

都合三十四座 別宮末社

富士は御神

袖摺松

後刻の林社

當社の舊地は府城の

當社の舊地は府城の

後刻の林社

當社の舊地は府城の

後刻の林社

當社の舊地は府城の

後刻の林社

當社の舊地は府城の

後刻の林社

當社の舊地は府城の

後刻の林社

當社の舊地は府城の

後刻の林社

當社の舊地は府城の

後刻の林社

神明社
万性寺



本樹
の
ま
の
ま
の
ま
の
ま

白道山万性寺幡随意院

本寺の西にありての山にありて
本寺の西にありての山にありて
本寺の西にありての山にありて

本寺の西にありての山にありて

本寺の西にありての山にありて

相模國房澤の郡若竹寺村川若氏ちうり父は上野國鉄林小
居し川嶋七黨の魁し山系家の嗣裔ちうり父は上野國鉄林小
洲若竹寺村に宿居し其子ちうり父は上野國鉄林小
れつちうり父は上野國鉄林小
色ちうり父は上野國鉄林小
とありてちうり父は上野國鉄林小
とありてちうり父は上野國鉄林小
群鳥箱後瓜くらえく屋の主人を産門をかこりてせはに
五丁のけしうり父は上野國鉄林小

父母にむいしあかえんとてはとていふも心をつるにける
既二十一歳の春或日白濁の玉濁の二病も任信義に上
人あつてつらく昨夜石之濱の霊を感へ青衣の童
子手に白た帳をたのむとて當家の小童うらりらに
左其由縁とて言ひしに曰けきよいはん世の福田あらぬ
と夜守護口んふあゆしうあつてきき帝親王の御
名ききよしうらりらとていふも心をつるにける
やしく左信とていふも心をつるにける
玉の四角の織造師とていふも心をつるにける
わらわは采の幼稚よりの作業とていふも心をつるにける
お祀を上人の扱とていふも心をつるにける
の白幡にひいたはたきとていふも心をつるにける
早たまは其後隙の許とていふも心をつるにける
徳倉とていふも心をつるにける
山とていふも心をつるにける
のち

愁上人の室にへく内外の修多羅に通達し超倫のたまは
ありは戦場の声とていふも心をつるにける
あつては七寅年正月廿二日廿三歳にして頻
に毎年のあつてとていふも心をつるにける
の外地まゝりたつて幡にまゝ上人の念仏公名のため
諸國通廻しつゝあつて上州鉢林の刺吏林原を康政の
の博よゆい候とていふも心をつるにける
よとていふも心をつるにける
下佐四圍宿大新寺を
開基しけしとていふも心をつるにける
より七七寅年正月廿二歳にして
任職とていふも心をつるにける
たまは九年七徳山百万遍に在りて
たのむ園東に招るもあつて林田の巻

浄刹と云建ありて神田と新智因寺憐愍院と号なり
日十二申年武蔵然谷村蓮生法師の遺跡に於て其堂ありて荒
廢りと造建し日十七亥年岩州の田の倉りて徳居し
了るを創し入向寺と云まよして九洲へ後廻りたる附七
赤間と國に於て神田と云に於て入向國と云其古使たり
と称れ其後遺るまよして岩州村丹原橋を造るを牛馬創
建し一閑居したまひて其後遺るまよして岩州村丹原橋を
傳室の上と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云
たまひてと云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云
の遺跡の仕るまよして誕生入向の始終まよしてありまよして
まよして不思深あることまよして諸筆をまよして上品まよして
得果再會をまよしてありて岩州の再會と云と云と云と云と云
ゆくと云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云

西にしろい筆よのち辞世の偈を書しと云曰

白は運歩數十年以火消火難思納

書畢と筆紙擲て合掌し念仏し眠るる遷神し

なまろりしとぞ時ふたね元年乙卯二月五日庚申七十七

四よりと云ふ此の寺をこねりて後

堀留の北望

堀留の北望 堀留の北望 堀留の北望 堀留の北望 堀留の北望

金竜山大心寺

鶴林公お松寺

當寺の寺名十七年洋を禊れる中真定基と云の北花松校碑石有

涼しき魂と魄とのいふをい

きたるの業内と云いばくぎん

江綿舎吐糸

全

堀留咄々
油摺巻

竹葉あても
蟠龍のど

老松や
紙のの神

近江
五月



角虎山丈六寺

色蕉翁碑銘曰

翁之仙也古人之古古人多此人嘗侍林古地
蛙嗟翁身是古人
塊亭風悟誌

旭岡庵壽山翁碑石

井原神社

井原神社
生去神祭九月十六日

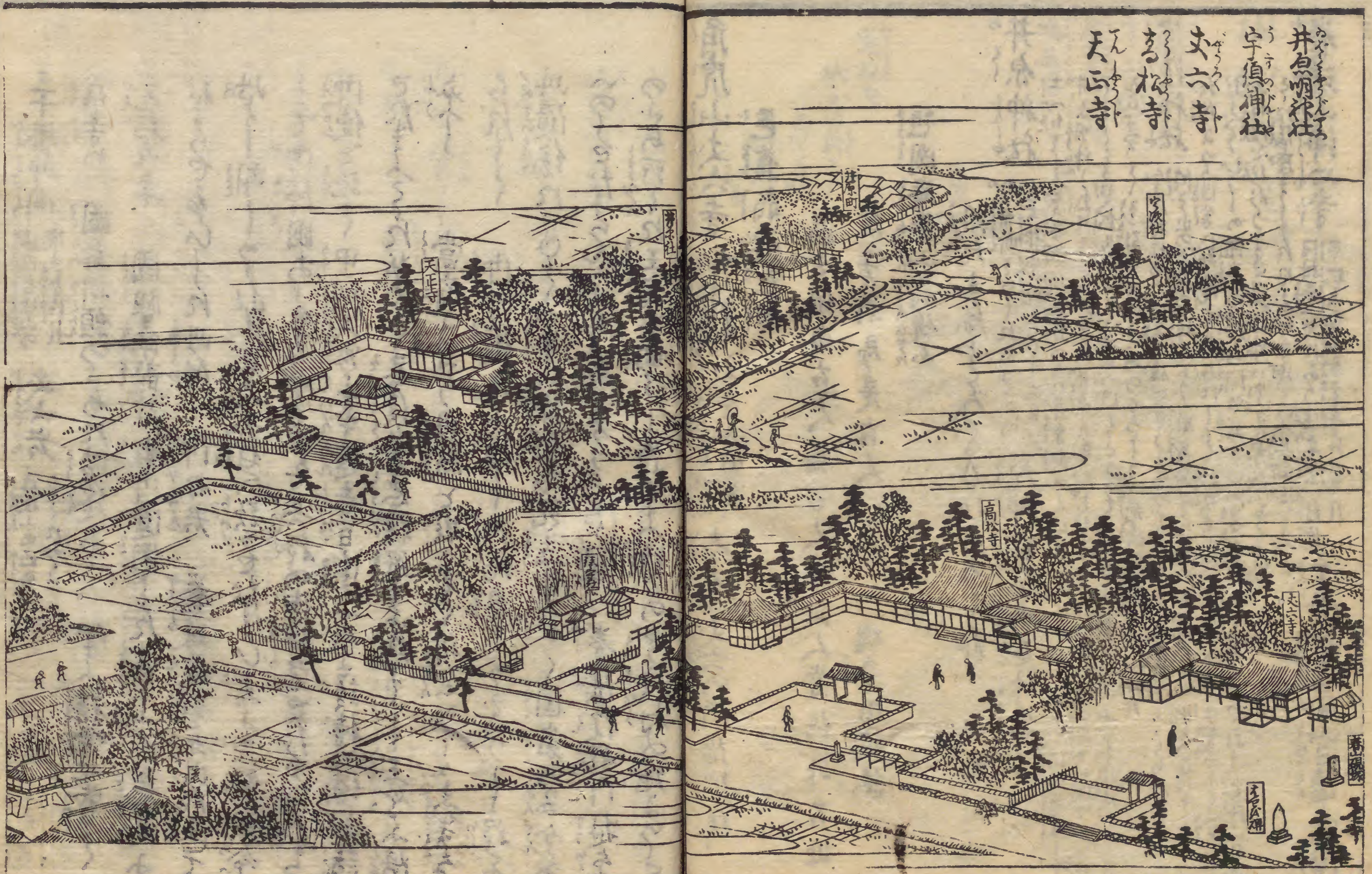
紀神守勢兩左神宮

春山

養珠山淨心寺
甲州大野寺を寺に屬し
本堂奉る岡山日遠上人の作

凡んまはとらくりひめのや那
井原神社
生去神祭九月十六日
紀神守勢兩左神宮
本堂奉る岡山日遠上人の作

井原明神社
宇真神社
文六寺
高松寺
天正寺



三斗番神祠

山内忠桂山の
祠

丈六岩

忠桂山の西の
岩

當寺ハ

國祖南龍院殿

御違例とん甚しく危篤小

元和九年

國祖南龍院殿

御違例とん甚しく危篤小

御母君

養珠院殿

東武に在て

此より

御母君

養珠院殿

御使と

御母君

養珠院殿

御使と

御母君

養珠院殿

御使と

御母君

養珠院殿

御使と

御母君

養珠院殿

御使と

御母君

養珠院殿

御使と

御母君

養珠院殿

御使と

御母君

養珠院殿

御使と

御母君

養珠院殿

御使と

御母君

養珠院殿

御使と

御母君

養珠院殿

御使と

御母君

養珠院殿

御使と

御母君

養珠院殿

御使と

御母君

養珠院殿

御使と

御母君

養珠院殿

御使と

御母君

養珠院殿

御使と

御母君

養珠院殿

御使と

御母君

養珠院殿

御使と

御母君

養珠院殿

御使と

御母君

養珠院殿

御使と

御母君

養珠院殿

御使と

御母君

養珠院殿

漢門

光明寺

光明寺の
御使と

占取 紀南 山ノ水

占取 紀南 山ノ水

通宵

通宵

胸中魚得自通宵

寶壽山光明寺

寶壽山光明寺

寶壽山光明寺

真光寺

真光寺

真光寺

東禪寺

東禪寺

東禪寺

國君

國君

國君

御使と

御使と

御使と

御使と

御使と

御使と

御使と

御使と

御使と

御使と

御使と

御使と

御使と

御使と

御使と

御使と

御使と

御使と

御使と

御使と

御使と

御使と

御使と

御使と

御使と

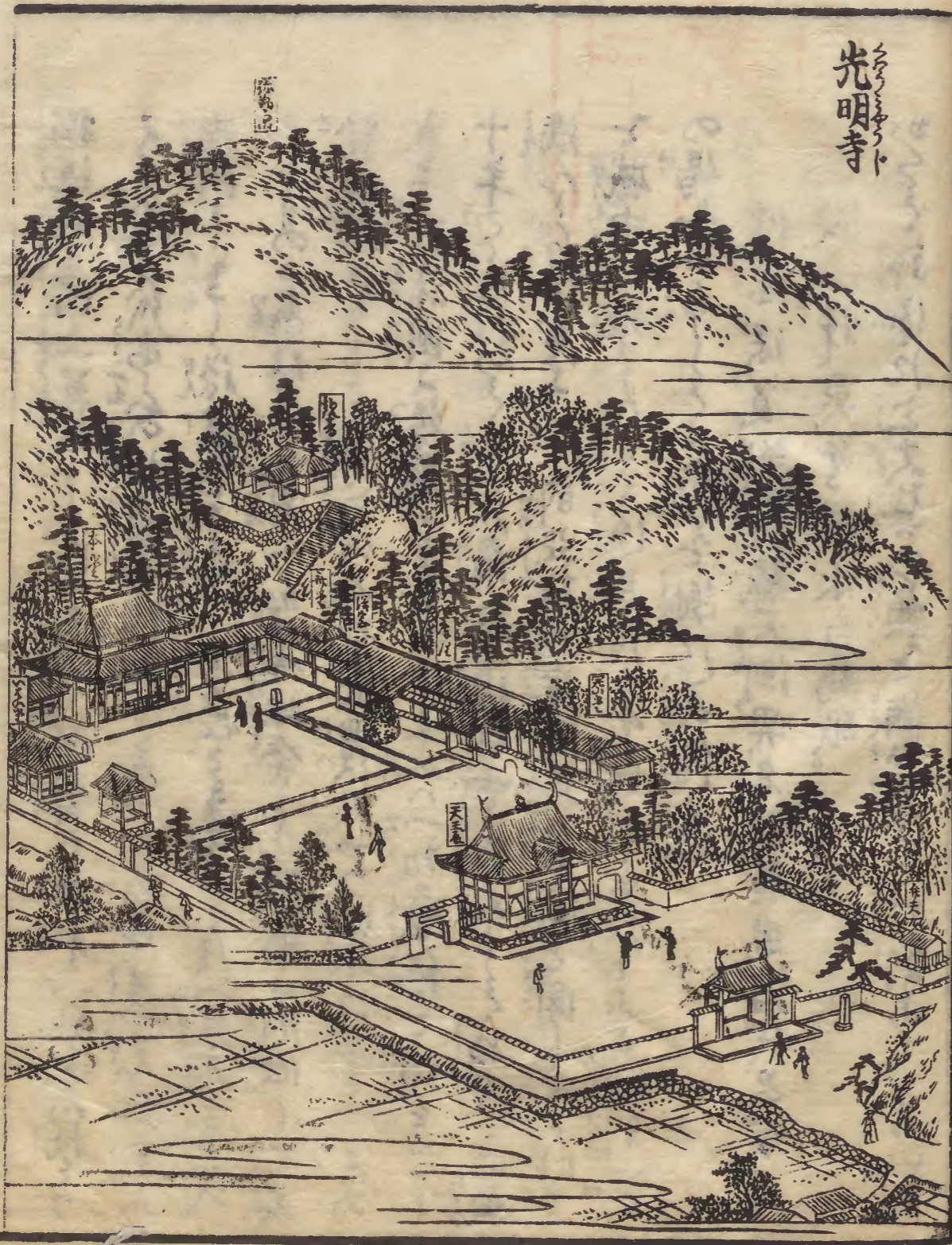
御使と

御使と

御使と

御使と

御使と



光明寺

白雲門外已無差別路
關門雲邊又有一重關

天王殿
四天王堂
の敷

福地鍾靈特感堂護国
慈門現瑞大歡三會度人

東方持国
西方廣目
南方增長
北方多門
中尊聖德太子

無風千古播
送風千古播
寶壽萬年長

支那國
悦山の
庫裡廊下

浴室

身心清浄未詳便休
水垢頭除更須一洗

齋堂
悦禪堂

淨規有禪護參龍象是

法眼圓明日費汁金非分外
偷心不死時常滴水也難消

地藏尊
位牌堂

青蓮居士

地獄何時空願海無盡日
衆生本即佛機轉有知期

祖師堂
本堂

寶壽山

梵刹建成呼寶王壽無量
舊本尊阿彌陀今置千手觀音
竭磨作音日在御堂
祖燈別起紀現瑞光永明
黃葉四代招提

鐘樓

舊吹上社之大鐘
併序見多圓通錄下卷

觀音堂

本堂の西
のほりあり
印塔場

因春山通律師元祿七年の造建る
淨原諱は信玄
因春山通律師元祿七年の造建る
淨原諱は信玄
因春山通律師元祿七年の造建る
淨原諱は信玄

和歌

書

獨湛たるの上はたれしほまろく徳廣く妙譽つたふれ切なり
たふ書山少の道若らに讀と譽る。わは佳意先移金ふ
徳の時にしつらふのこの大誓公費らつて圖外れおるるも
五羊つ諸國は編曆するの十年つ切職經と圖するも
十年これわらく居公南嶽律林寺にうらうらわこの願
満んたるもよ 前亞相賴宣御共芳徳と聞しるは是
と城中に致さんしと臣公を仰へたなすは作別一
の偈を口やしと心と謝は其偈は曰
僧定深德謝宣縁不測界名到貴遠清代只今
湖海縁莫野水白鷗眠。

元禄十五年秋八月

亞相光貞御芳命によしと城中に生く陸坐回言とて勅
たまへるしと圖也語録にまら

秋日過光明寺贈普白和尚 祇南海

二十年前曾識君不圖今復挹清芳機鋒翻水千江月
瓶鋒歸山一塢雪霜葉時兼巢鳥下炯鐘晚帶本魚
聞自羞宦海頭都白何日青山謝世氣

紀伊國名所圖會卷之一下畢

和歌

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

